

# 市立中央病院特集号

《問合せ先》

西宮市立中央病院  
西宮市林田町8番24号  
TEL:0798-64-1515  
FAX:0798-67-4811  
URL:www.nishi.or.jp/\_byouin/



院長 吉本 崇彦

西宮市立中央病院は、阪急門戸厄神駅より歩いて5分、国道171号線と中津浜線の交差する林田町にある地域の中核病院です。昭和50年に当地に移り、約30年になります。

内科・外科・整形外科・脳神経外科・小児科・皮膚科・産婦人科・眼科・泌尿器科・耳鼻咽喉科(休診中)・歯科口腔外科・放射線科・麻酔科(ペインクリニック)があります。そのほか、健康管理センター(人間ドック)、母子保健センター、リハビリテーションセンターがあり、多くの方々に利用されています。

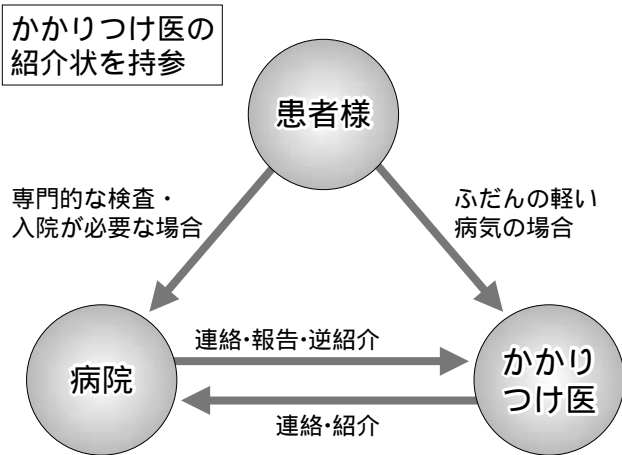
医療の進歩は目覚しく新しい技術や治療薬、CT、MRIなどの検査機器がどんどん導入され、診療内容もずいぶん充実してまいりました。このたびの特集では、市民の皆様健康づくりに役立つ情報をお届けするとともに、当院の経営状況についてご報告いたします。

院内スタッフ一丸となって、市民の皆様に信頼される病院を目指してまいりますので、今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。



病院全景

## かかりつけ医をもつよう病診連携システムについて



病診連携とは、初期治療や慢性の継続診療は診療所の医師(かかりつけ医)が行い、専門的な検査や入院が必要な治療は病院が行うというものです。当院では診療所の医師(かかりつけ医)との連携のもと、それぞれの機能に応じたより良い医療を市民の皆様に提供することを目指しています。

### 別表

診療科	専門分野	担当医師	資格	担当日
内科	消化器	小川 弘之	日本消化器病学会専門医	月曜(午後)
	循環器	原田 尚門	日本循環器学会専門医	月曜(午後)
	神経内科	水野 隆三	日本内科学会認定医	水曜(午後)
	呼吸器	原 秀樹	日本呼吸器学会専門医	木曜(午後)
	糖尿病・内分泌	紅林 昌吾	日本糖尿病学会専門医	木曜(午後)
外科	肝臓、胆のう、膵臓	左近 賢人	日本消化器外科学会専門医	月曜(午後)
	下部消化管(小腸・大腸・肛門)	天野 正弘	日本外科学会認定医	月曜(午後)
	上部消化管(食道・胃)・内視鏡外科手術	新居延高宏	日本内視鏡外科学会技術認定医	木曜(午後)
	乳腺、内分泌	林田 博人	日本乳癌学会認定医	木曜(午後)
	肺・縦隔	桧垣 直純	日本外科学会専門医	金曜(午後)

## セカンドオピニオン外来を開設

主治医以外の医師に治療法などについての意見を求めるセカンドオピニオンは、患者中心の医療に不可欠との認識が高まっています。不安や悩みを少しでも解消し、安心して医療機関で治療が受けられるよう西宮市立中央病院では8月から「セカンドオピニオン外来」を開設しています。受診可能な診療科等は別表のとおり。問合せは西宮市立中央病院地域医療連携室(☎0798・64・1515)へ

【申込】完全予約制。来院又は電話にて地域医療連携室(☎0798・64・1515)で受付。

受診できるのは、患者様本人・ご家族(配偶者・親・子・兄弟)ですが、ご家族のみのご相談の場合は、患者様本人の同意書及び相談者の身分証明書(運転免許証等)が必要です。

また、正確な診断を行うため受診には、主治医の紹介状、X線フィルム、検査データ等の資料が必要です。

【相談時間】おおむね30分  
【相談料】一回約8千円



# 西宮市立中央病院の経営状況について

西宮市立中央病院の経営状況について、平成16年度西宮市立中央病院事業会計の収支見込みを中心にお知らせします。

西宮市立中央病院は、地方公営企業法などに基づいて運営されており、病院事業によって得た収益によって賄うことを原則とされています。ただし、救急医療に要する経費など、市の政策上一定必要な経費については、西宮市から補助金が繰り出されて運営されています。

## 収支状況

平成16年度の経営につきましては、給与費や経費などの削減に努めましたが、入院および外来患者数ともに減少が続いたため支出総額から収入総額を差し引いた約2億円の純損失が見込まれます。昨年度の約3億4千万円の純損失に比べ、やや改善されてはいますが、繰越欠損金は63億円にもなり、大変厳しい財政状況にあります。

## 今後の対策

このような中で病院事業会計の収支改善を図るため、平成15年度から3力年にわたる「経営健全化計画」を定めて取り組みを進めてきました。が、病院間の競争激化等により患者数の減少が依然続いています。この

### 平成16年度西宮市立中央病院事業会計 決算見込

収入 59.4億円		その他 0.9億円		純損失 2.0億円
入院収益 26.5億円	外来収益 21.7億円	一般会計補助金 6.1億円	その他 医療収益 4.2億円	
支出 61.4億円				
給与費 33.3億円	材料費 15.4億円	経費 8.5億円	その他 4.2億円	

ため健全化計画の追加策として、今の少子化に伴い、他の病棟に比べて病床利用率の低下が課題となつていた6階病棟(小児科・産婦人科)について、平成17年4月から95床から60床に再編統合し、有効利用を図るとともに、職員数の適正化に努め、平成20年までの4年間で、約4億円の人件費の削減を計画しています。

## 市民健康講座を開催

西宮市立中央病院では、病気に對する診断と治療法について、同病院の専門医師がわかりやすく解説し、悩みに答える「西宮市市民健康講座」を、おおむね2か月に1回開催しています。

多くの方にご参加いただけるよう土曜日の午後を利用し実施していますが、毎回多数の参加者があり好評です。お悩みの方、興味のある方はぜひご参加ください。参加費無料。事前申込不要。

【会場】市役所東館8階大ホール  
(市役所前公共駐車場最上階)

【問合せ先】医事課(0798・64・1515)

## 今後の開催予定

開催時期	テーマ
17年9月末	大腸がんなど
17年11月末	乳がんなど
18年1月末	肺がんなど
18年3月末	胆石症など

詳しくは市政ニュースでお知らせしますが、開催時期・テーマについては変更になる場合があります。



## 「いいお産、楽しい育児」をめざして

母子保健センターの紹介  
当院の母子保健センターでは、「いいお産・楽しい育児」をめざして、妊産婦の皆様のサポートを医療チームで行っています。

### 【活動内容】

- \* 妊娠中から育児までの心配事・悩みの相談
- \* 妊娠経過にあわせた個別指導
- \* 分娩予約・夫立会分娩の受け入れ
- \* 臍帯血バンク受付
- \* 両親学級
- \* パパと育児を考える会
- \* 沐浴講習会
- \* プレママ会(妊婦の方向士の交流の場)
- \* 産後の電話訪問
- \* 赤ちゃんの身体測定・哺乳量測定
- \* 産後のおっぱいトラブルへの対応
- \* 赤ちゃん1ヶ月検診



## ボランティア活動

中央病院では、現在、約40名のボランティアの方が交代で活動しておられます。



病院玄関において、院内案内、歩行や車いすの介添えを行い、皆様に安心してご利用いただけますようお願いしています。  
ボランティア室では、ガーゼや綿花を使って医療材料を作り滅菌前のパッケージ詰めをしています。介護用品・設備品のカバーや書類運搬用の布カバンづくり、簡単な事務作業も行っています。  
小児のための点滴用着

は、タオル地で作り、便利で着やすいと好評です。

また、ロビーや廊下の整理整頓を行い、療養環境を整え、屋上では、植木の手入れをし、季節の花を植え、患者様やご家族にうつろいでいただける場所としています。



糖尿病特集

# 糖尿病の療養生活を応援します

～ 当院で糖尿病療養に関わる各職種からアドバイスをお届けします～

**医師**

糖尿病を安全かつ効果的に治療するために求められる幅広いニーズに対して、当院では医師、看護師、栄養士、理学療法士、薬剤師が一丸となって糖尿病の診療・療養を応援しています。一般公開の糖尿病教室や通院しながらインスリン治療を開始できる専門外来まで充実したプログラムを用意しています。



糖尿病ではないかと心配している方、糖尿病と言われても放置したり、たかが生活習慣病と思っている方、大丈夫でしょうか？症状が出てから検査をして治療する病気もありません。糖尿病はそうではありません。糖尿病は簡単に症状が出ずに体に忍び寄ってくる病気です。受診の機会を症状まかせにすることは大変危険です。症状が出た時には、既に著しい高血糖や進行した合併症が現れていることが少なくないのです。糖尿病にかかりやすいのは、糖尿病の親戚がいる、肥満である、運動不足などの人です。当ではまる人は定期的に検査を受けましょう。またこれまでに検査や受診の際に高血糖や尿糖陽性を指摘されたことがある人は、症状が無くても医師の診察を受けましょう。診察では、今のあなたの糖尿病の状態を見極めてどんな治療が必要なのかをお話しすることになります。

この治療とは、「くすり」治療だけをいうのではなく、食事療法や運動療法が大きな比重を占めます。なぜなら「くすり」の効果は100%発揮させるためには、正しい生活習慣を身につけることが重要であるからです。

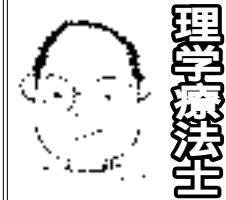
治療をしているけれども良くならない、インスリン治療が必要だと言われて悩んでいる、急激に糖尿病が悪くなった、こんな方も今のままでは心配ですね。高血糖で命を落とす方はほとんどいません。糖尿病が恐ろしいのは網膜、腎臓や神経で起こる合併症や動脈硬化疾患を引き起こしやすいからです。これらの予防のために、今の治療が大切になりますから、しっかりと医療機関で相談するようにして下さい。

## 公開糖尿病教室のご案内

水・木曜日(月8回)の  
午後3時～4時、於3階講義室

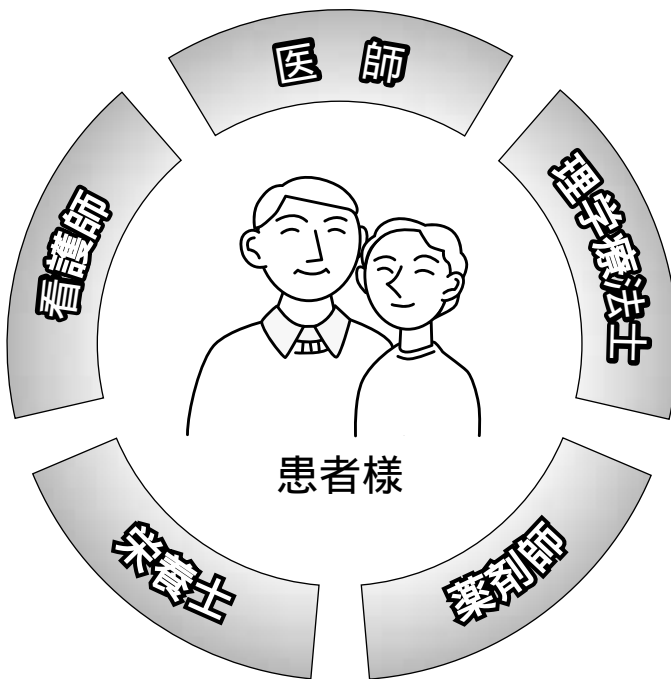
医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士が説明を行います。

糖尿病患者さんでない方、当院に通院されておられない方も遠慮なくご参加ください。



**理学療法士**

運動は、糖尿病治療の有効な手段の一つです。でも、実際に行うのはなかなか難しく、しかも長続きしません。そこで一言アドバイスいたします。運動のキーワードは「いつでも、どこでも、一人でも」です。「歩く」事が一番てっとり早いので、生活の中に上手に取り入れてみて下さい。例えば、マイカー通勤をやめて電車・バスを使う。少し遠くのスーパーまで歩く。エレベーター、エスカレーターを使わないなど工夫次第で運動量は増やすことは出来るので、楽しく長続きするようにして下さい。散歩と趣味を上手く組み合わせることで毎日少しずつ実践してゆきましょう！



**看護師**

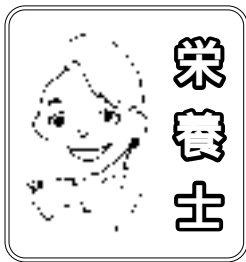
糖尿病の皆さんが日常の生活で気をつける事の1つに感染症・ケガの対処法があります。糖尿病で血糖値が高いと、白血球などの働きが弱くなり体の抵抗力が低下していますので、血糖コントロールが悪い人はいろいろな感染症にかかりやすく、治りにくくなります。ただの風邪・ケガ・水虫(白癬)と思っても、思いがけなく症状が悪化したり、結核や肺炎をおこしたり、傷が治りにくく、また、皮膚の潰瘍や壊疽を起こすことがあります。早目に医師や看護師に相談して下さい。感染を予防するために、日頃から手洗い、うがいをすることが大切です。体も清潔にし、特に陰部と足は毎日洗いましゅう。そして、何よりも血糖のコントロールを良好に保てるような療養生活を続けることが重要です。私たち看護師は患者さまの療養生活全体を支援しています。



**薬剤師**

糖尿病の治療を受けている方の中で、のみ薬やインスリンによる薬物療法を必要とする方も少なくありません。薬には2通りあります。1つは、痛み止めや解熱薬のように症状に合わせて適宜調節するもの。もう1つは、「薬の量」や「薬をのむ時間」が大切な薬です。糖尿病の薬はのみ方を守ることが大事です。インスリンを注射する場合も同じです。食事が摂れない時は、のみ薬やインスリン量の変更が必要な場合もありますので、注意して下さい。欠かす事ができない薬ですので、のみ忘れや注射の打ち忘れに注意し、外出や旅行する時も、必ず一緒に持っていきましょう。

薬をのんだり、インスリンを注射する上で、副作用が起きる可能性はゼロではありません。しかし、正しい対処方法を知っていれば、余計な心配をすることはありません。心配な症状や薬に関する疑問があれば、病院や医院で相談するようにしましょう。



**栄養士**

糖尿病の改善や予防には、適切なエネルギー量で栄養バランスの良い食事をとることが大切です。でも、まずは難しく考えずに生活スタイルや食習慣などをチェックし見直してみましよう。

**朝食は食べていますか？**  
朝食を抜く、又はパンとコーヒー等で軽くすませると、まとめ食いや早食いにつながり、これらは血糖コントロールを乱す元になります。

**朝食が食べられない原因は夕食が遅いことにも関係します。食事時間・起床時間など生活スタイルをチェックしてみましよう。**

**野菜を食べていますか？**  
野菜のおかずが少ないことが、メインのおかず(肉・卵・魚・大豆製品など)のとり過ぎにつながり、エネルギー過剰を招きます。野菜料理が毎食2品以上そろっているかチェックしてみましよう。

**こはんの量だけ減らしていませんか？**  
飲酒やお菓子を食べる為にこはんの量を減らしても、それ以上にエネルギーや糖分をとり過ぎている場合があります。一度、飲酒やお菓子の量と回数をチェックしてみましよう。

私たちの周りには、食に対する情報があふれています。体に良いと言われる食品も、食べ過ぎれば良くないものも多くあります。特定のものにこだわらず、毎食、主食・メインのおかずをゆつくり食べる。みなさんも、今日のお食事から見直してみませんか？

